

# グリーン四国

No.1179  
2018年  
6月号

## 国民の森林づくり推進功労者に対する 林野庁長官感謝状贈呈式 【詳細は2頁】



### 目次

- 池川木材工業有限会社に林野庁長官感謝状 ..... 2
- 新規採用者が工石山で見地学習などを実施 ..... 2
- 各地のたより ..... 3
- 私たち、ヤングライオンです！（第3回） ..... 6



四国山の日

## 四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30  
TEL 088-821-2052  
FAX 088-821-4834  
H P <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>  
E-mail [shikoku\\_soumu@maff.go.jp](mailto:shikoku_soumu@maff.go.jp)

## 池川木材工業有限会社に 林野庁長官感謝状

〈資源活用課〉

「国民の森づくり推進功労者」への林野庁長官感謝状の贈呈式が6月7日に局長室において行われ、池川木材工業有限会社 代表取締役の大原栄博氏に野津山局長より感謝状が贈呈されました。

池川木材工業有限会社は高知県仁淀川町の中山間地域に5つの工場を構え、約70名の職員を雇用するともに、すのこ、万能台、CLTラミナ等を生産。年間原木消費量は約8万m<sup>3</sup>に達し、主力製品である「ヒノキすのこ」は国内シェアの50%を占めています。

また、同社は統一した規格の乾燥材を安定的に供給することを目的として創設された「協同組合ドライウッド土佐会」のメンバーとして活躍されています。

更に、平成29年4月、同社が拠点を置く仁淀川町を含む「高吾北地域」は、林業成長産業化地域創出モデル事業の「林業成長産業化地域」に高知県では唯一選定され、同社も製材工業者代表会員として参画しています。

このように同社は、地域経済の活性化や雇用の創出、高知県産材の供給体制整備などに貢献していること

が高く評価され、長官感謝状が授与されました。



## 新規採用者が工石山で見 地学習などを実施

平成30年度新規採用者研修が、平成30年4月23日～27日までの5日間の日程で、今年度の新規採用者6名を対象に行われました。研修では、四国森林管理局の管内概要をはじめ、各課の業務概要等についての説明などが行われ、入庁後間もない研修生は、緊張しながらも一生懸命に学んでいました。

同研修は、室内での講義等が主体でしたが、3日目の25日は、机から少し離れ、嶺北森林管理署管内の工石山国有林へ出かけました。

この日は、前日からの大雨もすっかり上がり、晴天に恵まれ、無人航空機の操作実習も行いました。6名の研修生もそれぞれ、基本的な操縦方法を習得するため森林技術・支援センター渡辺督巳専門官指導のもと、手に汗を握り緊張した面持ちでドローンを飛行させました。

この後、同支援センター那須悟副所長と技術普及課大谷清職員のご案内により、工石山への登山を開始しました。



歩き始め直後は、研修生も静かに黙々と足を運んでいましたが、植物や国有林野の境界標などの講義を織りまぜるにつれ、次第に活発に声を上げ質問するなど真剣に学んでいる姿が見られました。

頂上手前の休憩所では、管内図を広げ、自分たちのいる場所はどこか、国有林の分布状況や自署管内はどこかなど図面の見方についても学びました。



この研修では例年、「内容の理解」「研修の水準」「講義時間」などについて、アンケートをとっています。

「十分理解できた」「適当であった」の意見もありましたが、「理解できなかった」「難しすぎた」といった意見もあり、今後の研修に向けて、講義（指導）する側もさらなる改善が必要だと感じさせられました。

最終日には、この研修をとおして考える公務員としての心構えなどについて、レポートとして提出してもらい、研修生からは、「四国森林管理局に入庁できて良かった」といった意見や、「法に基づいた業務実施が必要である」「失敗を恐れずチャレンジしたい」「技術を民有林で生かす」「コミュニケーション力をつける」「信頼関係の構築」などの抱負が寄せられました。今後の活躍を期待し、5日間の研修を終えました。



# 各地のたより



**各地のたより 目次**

飯野山国有林で「里山まつり」開催〈一日一石運動〉も一周年  
「滑床山開き」で森林教室  
中学生がコンパス測量などを体験  
中学生対象の森林教室開催

## 飯野山国有林で「里山まつり」開催

### 〈一日一石運動〉も一周年

〈香川森林管理事務所〉

香川県中部、丸亀市と坂出市の平野部にまたがってそびえる飯野山（1合目以上が国有林）は、その美しいおむすび形から讃岐富士として広く親しまれ、年間4万7千人もの登山者を集めています。

両市の観光協会では飯野山の標高422mにあわせ4月22日を「讃岐富士の日」と定め、平成22年から毎年この日に「里山まつり」を開催しています。

本年も、登山口のある丸亀市野外活動センターで、午前九時からおよそ300人の登山者を前に「山開き式」が開催され、香川県環境森林部長、丸亀市副市長、坂出市長らとともに香川森林管理事務所長が列席しました。



参加者は、山上に所在する寺院の僧侶による安全祈願のあと登山を開始。日曜日で好天に恵まれたこともあり、約2100人の登山者が山上へと向かいました。約2.2キロの登山道を思い思いのペースで登りながら、山歩きを満喫していました。讃岐富士は、健康づくり等のため毎日登る人も数多く、地元の方々から深く愛されている一方、大雨が降



ると毎年のように登山道が荒れてしまっています。そこで、昨年の里山まつりの日から丸亀市、坂出市と香川所が協力し、登山道入口に小石と土を用意して、登山者のみなさん自前で、荒れた登山道を修繕する〈一日一石運動〉に取り組んでいます。里山まつりのこの日、〈一日一石運動〉も一周年を迎え、丸亀市副市長からも運動への取組に対する感謝の言葉と今後の発展について挨拶がありました。運動も徐々に定着してきており、登山者の方から「自分たちの山を自分たちで守るという充実感があり、やりがいがあります」との声も聞かれることから、今後の運動が益々発展するよう、取組を継続していく必要性を感じました。

## 「滑床山開き」で森林教室

〈四万十川森林ふれあい推進センター〉

4月26日、愛媛森林管理署管内滑床山国有林の滑床深谷で、松野町等が主催する恒例の滑床山開きが行われました。足摺宇和海国立公園の指定を受ける滑床山国有林では滑床深谷が有名ですが、滑床山（1225.7m）も宇和島伊達藩、土佐藩、伊予吉田藩の三藩の境界として杭が立てられていたため、三本杭との呼び名で地域の人々やアウトドア愛好者に親しまれています。

当日、山開きには、松野町、宇和島市、鬼北消防署等の関係機関や地元の松野東小学校と松野西小学校の3・4年生児童計25名も緑の少年団として参加し、総勢約60名が出席して厳かに神事が執り行われ、自然保護と利用者の安全を祈りました。

その後、滑床アウトドアセンター万年荘内をお借りして、愛媛森林管理署と合同で森林教室を行い、児童達に森林のはたらきについて説明しました。

今回の取組が児童達にとって、自然や森林を身近に感じることが出来る良い機会になって欲しいと思います。





「山開きの神事の様子」



「森林教室の様子」

## 中学生がコンパス測量 などを体験

〈四万十森林管理署〉

平成30年5月15日から17日の3日間、四万十市立中村中学校3年生3人の職場体験学習を実施しました。

一日目は、(森裕一) 総括森林整備官と(豊永憲文) 主任森林整備官の指導の下、庁舎敷地内でコンパス測量について学習しました。

また、局資源活用課による、最新測量機器GNSS「衛生通信」を使って測量を行う機器の説明会にも参加しました。

この後、国有林の現場で実際に境界管理業務を体験してもらうための準備作業として、国有林野地理情報システムを用いて図面を作成し午後からに備えました。



午後から大方町にある入野東浜林に移動し浮鞭森林事務所(林美樹也) 森林官が、作業箇所を案内し、国有地と民有地の境界の管理について学びとともに、不明になっている境界標識を割り出すために、先に学んだコンパス測量機器を用いての検出作業を行いました。

二日目は、コンパス測量の成果の製図に取り組んでもらい、方眼紙や全円分度器等を用いた手作業での製図



や、パソコンソフトによる製図を行いました。

続いて、森林育成業務として、小さい虫被害木の調査について学んでもらうため、輪尺を使って胸高直径を調べたり樹高を測ったり樹木の計測方法についても学習しました。

当該箇所は町からも近く、また防風林的な役割も果たしており、地域に密接している松林で、入り込み者も多いこともあって美化活動についても学んでもらいました。



最終日には、宿毛市方面の惣師山国有林に出かけ、森林整備事業の一つである間伐作業について、植村木材(有) 佐竹直美現場代理人より説明を受けました。

代理人からは、林業の現状についても講話を頂きました。

山内勇 樹係員からは、ドローン操作による遠景写真の撮影方法や木材搬出用の「グラッブル」重機についての説明を行いました。



楠山・中村森林事務所管内の奥藤林道の災害復旧工事を見学してもらうとともに、南郷林道では落石除去や危険箇所表示等の林道維持管理について、学んでもらいました。





この日、最後の見学地となった県森連幡多木材共販所では、木材が山から伐採され搬出後に土場へ運ばれ、仕分けされていく様子を学んでもらいました。

今回の体験学習では、主に現場での仕事を見て頂いたこともあって、職場体験を始める前に抱いていたイメージとは違い、国有林の業務内容の幅広さに驚いた様子でした。

最後に、国有林の仕事は大変ではあるけれど、やりがいがあり、森林と森林管理署の存在に興味を持つ良いきっかけになった、入野東浜林でのコンパス測量などの体験が印象深かったなど、3日間の職場体験を振り返り修了しました。



写真右 池田 迅君

中 田上 貴良君  
左 本田 翔太君

## 中学生対象の森林教室開催

〈四万十森林管理署〉

宿毛市立片島中学校で毎年取組まれている「山の学習」の一環として、今年も当署へ1年生36名対象の木工教室の依頼があり、6月5日、宿毛市橋上町楠山にある体験型宿泊施設「山里の家」（旧楠山小学校）の体育館にて、当署職員9名のほか、四万十川森林ふれあい推進センター職員2名の応援も得て開催しました。

今回は、間伐や森林の働きについて約50分の講話も依頼されていたことから、当署若手職員のOJTも兼ねた取組に位置付け対応にあたりました。できるだけ楽しめる内容を趣向として、イラストや写真を多く使った職員手作りの資料を準備し、随所にクイズ形式の森林と人との関わりの説明も加えつつ、森林の持つ多面的機能や間伐等森林整備の必要性について理解を深めてもらいました。高性能林業機械のムービーや、目前でのドローンのデモ飛行では、生徒達も大変興味深そうに見入っていました。

講話後の質疑応答では、「森林整備の遅れが原因で絶滅した生き物はいるか」「昔と今で植えている木の種類は違うのか」など、難しい質問も数多く挙がりました。

今回講話を担当した若手職員は、

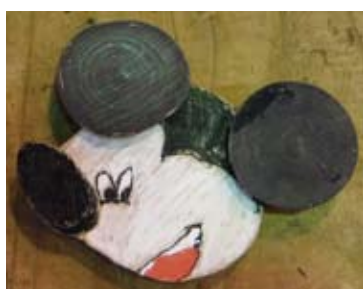


テーマが難しく、聞く側が飽きてしまわないか？、内容を理解してもらえるのか？、という不安がありました。また、生徒たちは、一生懸命ノートをとりながら終始集中して聞いていました。また、時折頷きながら聞いている様子からも内容を理解していることが伝わってきました。

午後の木工教室は、作製にあたっての注意事項等を説明した後、木工クラフト用材料として準備していたサクラやツバキの輪切りから、大小色々なパーツを各自選んで作品づくりに取り組んでもらいました。署職員はそれぞれ、生徒達の輪に混じって、道具の使い方などのアドバイスをしました。



今回材料とした木の枝や幹には、様々な形や性質があり、乾燥し過ぎて非常に堅くなった材料に苦戦する生徒もいましたが、道具を上手に使いながら、最終的には素材の個性と生徒の発想を生かした素晴らしいオリジナル作品を数多く完成させていました。2時間足らずの短い時間でしたが、生徒達のほか、先生方にとっても楽しみながら自然の素材にふれあう貴重な時間を過ごしていただきました。



たものと思います。また、若手職員にとっても今後に向けて大変有意義な時間となりました。



# 私たち、**第3回** ヤングライオンです!

みなさん、こんにちは。

ここでは、林野庁四国森林管理局に入庁後、各署に配属されて職場の皆さんと業務をこなし、頑張っている若獅子達「ヤングライオン」に今後の目標などを聞かせてもらいました。

第3回目となる今回は、香川森林管理事務所 総務グループ 松原美紀さんにインタビューをしました。



松原 美紀さん

**Q** 職場に入る前と入った後の印象を教えてください

「国家公務員が働くお役所」という印象があり、カタカタとパソコンの音ばかり響くような堅いひんやりした雰囲気だと思っていたので、入庁前に職場に電話をしたときには緊張して、電話を終えた瞬間、自分が何を話したか忘れてしまっているほどでした。実際に入庁してからは、心ひかれる温かい人がたくさん働いている職場なのだと感じています。

仕事の話も趣味の話もとても熱心に話す先輩方に囲まれて、毎日が楽しく、穏やかな雰囲気の中でびのびと仕事をしています。



**Q** 楽しかったことって何ですか

収穫調査業務をしていたときに山の尾根で昼食を食べたことです。暑くなってきた初夏の時期に、少し汗をかきながら山に登りました。昼食にと決めた場所が、とても見晴らしがよく涼しい風がぬける気持ちの良い所でした。いつものおにぎ

りとお茶がとてもおいしく感じたので不思議だったのを覚えています。疲れましたが、がんばって登ってきて良かったなと感じました。

**Q** 少し苦しい思いをしたときってありますか

山の歩き方が分からず、服が泥だらけになったときです。山を下るのが特に難しく、先輩方ほどの道をたどって行ったのだからなほ軽々と下っていく中、私はすべり台をすべるようにおしりをつけて下りました。(きこない私の歩き方をみて先輩がアドバイスしてくれました) 山を下りた後は、私だけ冒険に出ていたかのようにひとりだけ官服がドロドロでした。「はじめはみんなそんなもの」「たくさん歩いたら上手になる」と声をかけて下さいましたが、私も先輩方のようにカッコ良く山を歩けるようになりたいと強く思いました。

**Q** 研修を行ってからの業務への印象って変わりましたか

經理の業務で様々な書類を目にする機会があります。研修を受ける前は知らない言葉だらけで馴染みのない書類だったものが、研修を受けた後は分かる言葉や内容が増え、「この言葉はそういう意味だったんだ」と、どういふ書類か少し分かるようになりました。書類に色が付いたみたいに分かりやすく見えて、自分の身近になったようで嬉しかったです。

**Q** 職場の雰囲気を感じられるような工夫はありますか

「ポイントがあれば教えてください」注したコピー用紙が事務所に届いたとき、職場のみなさんが駆けつけてくれてバケツリレーの要領で運んで下さいました。「あとどれくらい?」「半分くらい

「えー」と声を掛け合いながら賑やかに運んでもらって、普段はそれぞれのお仕事をしている皆さんが、何気ない作業の中でも楽しそうに出来る職場って良いなあと感じました。

池本前所長と地元イベントに参加した後、「食べさせてあげたいうどん屋さんがある」と「手打ちうどん たむら」へ連れて行っていただきました。登山でたくさん歩いた後、少し並んで食べたうどんは、醤油が出汁を選んで食べるもので、麺の味をしっかりと味わうことができました。少し太めで食べ応えがあり、打ちたてでおいしかったです。今でもそのイベントの話が出ると、所長と一緒においしくうどんを食べたことを思い出します。

**Q** 今後の目標を聞かせてください

たくさんの人と出会って色々な話を聞いたり、新しい経験をしたいです。知らないことばかりなので、お話や経験からたくさん吸収して自分の力でできるようになりたいです。今は頼ってばかりですが、私もいつかは頼ってもらえるような立派な先輩になりたいです。

入庁したばかりの頃はおとなしくて控えめな印象でしたが、今では官庁合同業務説明会等で入庁希望者に国有林業務の内容をわかりやすく教えてくれる優しい先輩になっていきます。今後ともよろしくお願ひします。

「収穫調査業務」とは、国有林の立木を伐採又は売り払う際に行う基礎的な調査で、伐採・売払いの対象となる立木を選定するとともに、その樹種、材積、材質などを調査するものです。【米談】